

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370424

研究課題名(和文)台湾文学における日本表象の相互性について 日本・韓国・中国文学を視野に入れて

研究課題名(英文)On the Mutuality of Japan Representations in Taiwanese Literature: Bringing into View the Connections with Japanese, Korean, and Chinese Literature

研究代表者

四方田 千恵(垂水千恵)(YOMOTA-TARUMI, Chie)

横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授

研究者番号：70251775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：「台湾文学における日本表象の相互性について 日本・韓国・中国文学を視野に入れて」というテーマのもと、台湾から楊智景(中正大学)、黄美娥(台湾大学)などの気鋭の研究者を迎え、3年間で3回の国際ワークショップを行った。さらには日本統治時代を舞台とした甘耀明の大作『鬼殺』の翻訳を刊行し、甘耀明を迎えての国際シンポジウムも行い、研究成果を社会に還元した。その他、7回の国際学会を含む国内外の学会で合計13回の報告を行うなど研究成果を積極的に公開した。

研究成果の概要(英文)：Based on the theme "On the Mutuality of Japan Representations in Taiwanese Literature: Bringing into View the Connections with Japanese, Korean, and Chinese Literature", We had three international workshops in three years. Furthermore, we published a translation of the masterpiece "Sagui(Kill Demons)" by KAN, Minyao set in the Japanese occupation era, also held an international symposium welcoming the author.

研究分野：台湾文学

キーワード：台湾文学 日本表象 翻訳 国際ワークショップ 国際シンポジウム

1. 研究開始当初の背景

これまでの研究により明らかになってきたことは、台湾現代文学・映画の核心には、戦前の日本植民地統治期の記憶が存在し、それが作品の重要なモチーフを形成しているということである。例えば映画では『海角七号』(2008)、『セデック・バレ』(2011)などに、さらには小説においても植民地経験を持たない1972年生まれ作家甘耀明の『殺鬼』(2009)に顕著にこの傾向が見られた。

これは果たして台湾文学・映画だけに見られる傾向なのか、中国・韓国においてはどうか、さらに日本文学では逆に台湾表象はなされているのか、といった問題に対して、日本のみならず、台湾の研究者、さらには韓国文学研究者とも連携を取りつつ探究すべく研究を開始した。

2. 研究の目的

なぜ直接の植民地体験を持たない世代の台湾人作家たちに、植民地記憶が継承され、その作品において日本表象がなされるのか、という問題について、国内外の研究者・作家と対話を重ねつつ、様々な角度から検討することを目的とする。

3. 研究の方法

研究方法としては主として以下の3点があげられる。①総合テーマに基づく国際ワークショップまたは国際シンポジウムの開催 ②総合テーマを具体化した定例研究会および総合テーマをもとで設定した個別研究テーマに基づく成果発表 ③作品翻訳の3点である。この3点のアプローチを総合しつつ、研究テーマについての理解を深めた。

4. 研究成果

本研究においてもっとも重視したのは上記①の総合テーマに基づく国際ワークショップまたは国際シンポジウムの開催であった。

まず研究計画1年目の2015年3月18日には横浜国立大学国際教育センター306教室において国際ワークショップ「台湾文学における日本表象の相互性について」を主催した。

その内容はまず楊智景(中正大学・助理教授)による基調講演「日治時期台湾原住民族菁英的自畫像與日本再現：以《理蕃の友》為中心」によって日本統治時代の日本表象をpushした上で、以下の4つの報告およびコメントーターによる討論を行った。報告者およびコメントーターは以下の通りである。

報告1：王琬葶(政治大学大学院)「感覺的拮抗：松浦理英子跟李昂的女同志小説」コメントーター：赤松美和子(大妻女子大学・准教授)

報告2：許雅筑(政治大学大学院)「行動主義文學在台灣」コメントーター：張文菁(早稲田大学・非常勤講師)

報告3：陳雨柔(政治大学大学院)「底層

「兒童」的遊戲與勞動：論翁鬧的〈羅漢腳〉與巫永福〈愛囃的春杏〉」コメントーター：明田川聡(高崎経済大学・非常勤講師)

報告4：林立芸(政治大学大学院)「媒介再現下的二林蔗農事件」コメントーター：八木はるな(東京大学大学院)

さらに、この報告に基づき、科研メンバーおよび参加者全員による全体討論を行った。

次に研究計画2年目の2015年度には2016年1月29日および1月30日の二日間にわたって、横浜国立大学教育文化ホール中会議室において国際ワークショップ「台湾文学における日本表象の相互性について」を開催した。

その内容は倉本知明(文藻大学助理教授・詩人)による基調講演「戦後日台両国における復員者表象」によって、戦後の日台両国における日本表象の非対称性を論じた上で、8本の台湾人若手研究者の報告および日本人研究者を中心とするコメントーターによる討論を行った。報告者およびコメントーターは以下の通りである。

報告1：梁恩寧(台湾大学)「臺灣内向世/視代作品中的日本文化符號一以賴香吟和駱以軍為例」コメントーター：赤松美和子(大妻女子大学)

報告2：吳宗佑(政治大学)「寫實劇的傳播：日本新劇運動與台灣新劇祭(1934)的關連」コメントーター：三須祐介(立命館大学)

報告3：陳令洋(清華大学)「書道如何通禪理？—「迴腕法」的東亞傳播與台灣書法家曹秋圃的「書道禪」」コメントーター：劉靈均(神戸大学大学院)

報告4：黃子萍(政治大学)「童心與放浪：俄國盲作家愛羅先珂文學作品在日治時期台灣的譯介與受容」コメントーター：明田川聡士(高崎経済大学)

報告5：許金時(清華大学)「《高砂館》的時空敘寫：台灣日治末期的場景再現」コメントーター：張文菁(早稲田大学)

報告6：蕭怡姍(政治大学)「日治時期《臺灣日日新報》中日人臺灣行旅圖文研究—以石川欽一郎與那須雅城為例」コメントーター：八木はるな(東京大学大学院)

報告7：黃祥瑀(清華大学)「海洋巨獸的縮影：鯨向海同志詩中的鯨魚與獨角獸」コメントーター：倉本知明(文藻外語大学)

報告8：楊珣(台湾大学)「以追風〈她將往何處去〉為中心——旅日知識份子及自由戀愛的烏托邦」コメントーター：三須祐介(立命館大学)

さらに参加者全員による全体討論を行った。

また、このほか赤松美和子の企画により、日本現代中国学会第65回全国学術大会分科会企画に応募・採用され、2015年10月25日に同志社大学においてパネル「テーマ：台湾文学・映画における日本表象と日本文学における台湾表象の相互性」を開催、司会白水紀

子、報告赤松美和子、コメンテーター垂水千恵のメンバー全員が参加した。

研究計画3年目の2016年度は2度の国際シンポジウムおよび1度の国際ワークショップを行った。まず2016年10月22日にキャンパスイノベーションセンターにおいて「国際シンポジウム 前衛としての台湾文学：1990年代文化論再考」を開催した。これは科研基盤研究(C)25370399「戒厳令解除と1990年代台湾文化の再編成—『島嶼辺縁』とその時代」研究代表者：三木直大との共催によるものである。司会および報告者、コメンテーターは以下の通りである。

第1部「1990年代台湾文化再考」司会：三木直大（広島大学）、報告者：紀大偉（政治大学）、コメンテーター：山口守（日本大学）、垂水千恵（横浜国立大学）

第2部「文学史、映画史を書く」司会：山口守、報告者：陳芳明（政治大学）、コメンテーター：四方田犬彦（映画史家）

第3部「もはや周縁ではない？ 紀大偉に聞く台湾 LGBT 文学」司会：垂水千恵、報告者：三須祐介（立命館大学）、コメンテーター：紀大偉

第4部：総合討論

本国際シンポジウムを通じ、より広範な問題設定から研究テーマを発展させることができた。

さらに、研究分担者の白水紀子による翻訳『鬼殺し』上下（白水社）の刊行を契機に、「国際シンポジウム 作家甘耀明氏に聞く台湾文学における日本表象」（2017年1月21日、台湾文化センター）、「国際ワークショップ 甘耀明鬼殺しを読む」（2017年1月26日、新潟県立大学）を開催した。後者は科研基盤研究(C)16K02605「日本語創作を通して見た東アジア3国文学の関連様相」研究代表者：波田野節子との共催によるものである。その内容は以下の通り。

「国際シンポジウム 作家甘耀明氏に聞く台湾文学における日本表象」

司会：垂水千恵

第I部：白水紀子（横浜国立大学）『鬼殺し』の世界」

第II部：黄美娥（台湾大学）「一部耀眼明亮的臺灣文學作品：甘耀明《殺鬼》的創作意義」

第III部：講演：甘耀明（作家）「《殺鬼》中的日本形象」

第IV部 総合討論（16:30～17:00）：通訳：張文菁（早稲田大学）・明田川聡士（横浜国立大学）

「国際ワークショップ 甘耀明鬼殺しを読む」

司会：波田野節子

第I部：基調講演：黄美娥（台湾大学台湾文学研究所教授）「一部耀眼明亮的臺灣文學作品：甘耀明《殺鬼》的創作意義」

第II部 ディスカッション：発言者：垂水千恵（横浜国立大学）、明田川聡士（横浜国立大学）他通訳：卓于綉（専業通訳）・八木はるな（高崎経済大学）

②総合テーマを具体化した定例研究会としては2015年8月1日（土）に東京台湾文学研究会との合同開催により「『親日／皇民』の烙印をめぐる」を開催した。これは波田野節子（新潟県立大学名誉教授）の基調報告『『李光洙（イ・グァンス）——韓国近代文学の祖と「親日」の烙印』を中心に』に台湾文学研究者である星名宏修（一橋大学）、垂水千恵（横浜国立大学）がコメントする、というものであり、日本表象の問題を台湾・日本のみならず、韓国も視野に入れて考える上で、貴重な機会であった。

その他、個別に参加した国際学会、および③作品翻訳については5を参照いただきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）

1 垂水千恵「台裔作家が描く台湾表象—陳舜臣・東山彰良を中心に—」『ときわの杜論叢』、査読有、4巻、印刷中、2017年

2 赤松美和子「新移民が書き始めた新たな台湾の多元化」『東亜』査読無、597巻、100—107頁、2017年

3 赤松美和子「1960年代の台湾映画における日本表象」『大妻比較文化』査読無、18巻、3—17頁、2017年

4 垂水千恵「すでに周縁ではない？ 台湾 LGBTQ 文学」『すばる』、査読無、38巻8号、104—111頁、2016年

5 赤松美和子「魏徳聖在日本的接受状況」『中外文学』査読無、45巻3号、195—204頁、2016年

6 垂水千恵「第三個拿到直木賞的台湾人」『新潮』査読無、112巻10号、236—237頁、2015年

7 赤松美和子「蔡秀女『稲穂落つ』訳・解説—白色時代を描く台湾文学（14）」『植民地文化研究』、査読無、14号、225—241頁、2015年

8 垂水千恵「丸谷才一の顔を避けて—『裏手で歌へ君が代』試論」『新潮』、査読無、101巻11号、175—185頁、2014年

9 垂水千恵「書評吳佩珍著『真杉静枝と植民地台湾』」『日本研究』査読無、51巻、204—207頁、2015年

〔学会発表〕（計 13 件）

1 垂水千恵「翻訳郭松分作品的困難与問題」「郭松分与李渝文学研討会」2016年12月17日～18日、台北（台湾）

2 赤松美和子 『台湾を知るための60章』刊行をめぐって』お茶の水女子大学中国文学会12月例会 2016年12月3日、お茶の水女子大学(東京)

3 垂水千恵 「従陳舜臣『残糸曲』看日本華僑文学」「一帯一路と泰国華文文学国際學術研討会」2016年7月24日、バンコク(タイ)

4 赤松美和子 「Japanese Images in Genres: Pretexts of the Japan Complex in Taiwan Cinema」AAS-in-ASIA - Kyoto 2016同志社大学 2016年6月25日、京都

5 垂水千恵 「台裔作家の台湾／中國書寫——以陳舜臣、東山彰良為中心」第七屆文學傳播與接受」國際學術研討會」2016年5月26～27日、国立東華大学主催、会場台北一女、台北(台湾)

6 垂水千恵 「呂赫若作品における『玉蘭花』の位置と温又柔「被写体の幸福」第4回世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会、2016年4月10日、東京大学(東京)

7 垂水千恵 「日本人作家丸谷才一如何描寫臺灣「獨立」?—試論《用假聲唱!君之代》—」主辦單位:政治大學臺灣文學研究所、2016年2月22日、台北(台湾)

8 赤松美和子 「戦後台湾映画における日本時代表象」日本現代中国学会 2015年度全国學術大会、2015年10月10日、同志社大学(京都)

9 白水紀子 「中国のセクシュアルマイノリティとその歴史—近現代文学を中心に」2014年度総合女性史学会大会」2015年3月22日、昭和女子大学(東京)

10 赤松美和子 「入門書や概説書から見た台湾」台湾理解を見直すためのワークショップ」2014年11月30日、京都大学(京都)

11 赤松美和子 「跨國文化流動下的歴史商品:論當代台湾電影建構的「日本時代」、国立清華大学台湾文学研究所主催、台湾文學研究新視野:反思全球化與階級重構國際研討會」、2014年10月24-25日、新竹(台湾)

12 赤松美和子 「現代台湾映画における「日本時代」の語りを考える」「現代台湾における植民地記憶の語りに関する研究 第3回研究会」2014年7月12日、大阪大学東京町田オフィス、東京

13 垂水千恵 「日本人作家如何描繪臺灣「獨立」—以丸谷才一《用假聲唱!君之代》為論述中心——」臺灣大學臺灣文學研究所主催「第一屆文化流動與知識傳播—台灣文學與亞太人文的相互參照」國際學術研討會、2014年6月20～21日、台北(台湾)

[図書](計11件)

1 白水紀子、白水社、『鬼殺し 上』2016年、381頁

2 白水紀子、白水社、『鬼殺し 下』2016年、356頁

3 赤松美和子、明石書店、『台湾を知るための60章』、2016年、375頁

4 赤松美和子、明石書店、『東アジアの政治と文化』、2016年、207頁中291-307頁

5 赤松美和子、三元社、『台湾のなかの日本記憶』、2016年、306頁中157-190頁

6 垂水千恵、東方書店、『台湾新文学史 下』2015年、568頁中、65-32頁

7 垂水千恵、萬卷楼図書、陳惠齡主編『伝統與現代:第1届台湾「竹塹学国際學術研討會論文集』』、615頁中15-32頁、2015年

8 白水紀子、白水社、『神秘列車』、2015年、172頁

9 白水紀子、勉誠出版、『ジェンダーの中国史「セクシャリティのディスコース—同性愛をめぐる言説を中心に」、2015年、296頁中211-223頁

10 垂水千恵、台北:中央研究院人文社会科学研究センター張季琳主編『日本文学における台湾』、316頁中41-62頁、2014年

11 白水紀子、人文書院、『増補改訂版 中国女性史入門』、227頁、2014年

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

[その他]

ホームページ等

<http://motto-taiwan.com/2014/05/hybrid/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

四方田千恵(垂水千恵)

(YOMOTA-TARUMI, Chie)

横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授

研究者番号:70251775

(2) 研究分担者

白水紀子(SHIROUZU, Noriko)

横浜国立大学・大学院都市イノベーション

研究院・教授

研究者番号:10196628

赤松美和子(佐藤美和子)

(AKAMATSU, Miwako)

大妻女子大学・比較文化学部・准教授

研究者番号:00510653